

ユースワークという考え方のコアは何が

〜Ethicsから考えよう〜

京都市ユースサービス協会常務理事・事業部長 水野篤夫

1. 若者の自己選択の機会

15年以上前のことですが、ユースサービス協会の事業として、若者の市民参加を促す取り組み“をやる”と提案しました。その時の周囲の反応は「市民参加って何?」「若者の参加って難しいで」というようなものだったと記憶しています。でもとにかくやってみようと考えたのが、「高校生のまちづくり (Teens Forum)」でした。当時、大学生の活動というのほさまざまがあったのですが、高校生が参加できるものが無いのでは?と考えて「高校生の」と対象を絞りました。ところが、参加者は2人だけ! 事業として実施できるかピンチでしたが、大学生スタッフ2人と一緒に、とにかくやってみることにしました。

内容については詳しくは書きませんが、岡山の元気な高校生グループと交流したり、京都市の基本計画に提案をしたり、少人数の良さを生かしつつ(?) 楽しく活



動しました。この事業の経験をベースにして、市政に若者の声を届ける事業を展開していくことになったのですが、この時はっきり感じた一つが、「高校生だって場さえあれば、ちゃんと考え行動することができるとだ」ということでした。

同時にそれは、それまで若者と関わる現場に長く携わっていたのですが、やっぱりどこか「教え導

く、支えてやる必要がある」存在として彼/彼女らを見ていたのだと、自ら振り返る体験にもなりました。その時、参加してくれた高校生の一人が言ってくれたことは、今でもとても支えになるとともに、反省を迫る言葉でもあります。

「水野さんは、自分のことを上から見るのではなくて、一緒に動いてくれた」

2. 若者の世界観

もう一つこの事業で考えさせられたことがあります。岡山訪問で「岡山の高校生が日頃過ごしている所を案内して!」とリクエストしたのですが、彼らを選んでくれたのは、ゲームセンター(〇〇ワンダーランド)↓カラオケ↓中華料理屋(ぎょうざとコーラ)↓図書館の前(ガラスの前でダンス練習する若者が集まる)というコースでした。大人が考えたのでは出てこない選択肢です。案内してく

れたメンバーは、岡山で高校生フェスティバルを企画しようという集まりなので、決して「不真面目」な高校生じゃないけれど、学校の中では、やはりやりたいことができない様子でした。ついつい、私たち「施設職員」も大人の価値観でプログラムを考えてしまいがちなので、彼らの案内コースのような、普通の高校生たちが生活の中に織り込んでいるものや感覚を大事にする必要があるのだと感じた訳です。

3. ユースワークの価値指針 (Ethical principles)

これまで何度か、ユースワークについて考え方を書いてきました。とはいえ、そもそも何がユースワークで何は違うのか? どんなことやればユースワークといえるのか? もう一つぼんやりとしていたのではないかと思います。事実、曖昧で幅広い実践を含めることができるのが、ユースワークの強みや特色だともいえるのです

が、そうはいっても、子どもや若者に関わる活動すべてをユースワークと見なすことはできません。どうしても共感できないような活動も実際にあります。

例えば地域での少年スポーツの活動は盛んに行われていて、これなどはユースワークの典型ともいえるプログラムなのですが、そこでの指導者の関わり方にはとても違和感を抱くことがあります。ある場所で見えた少年野球では、指導者がバットを持って怒鳴りまくっていました。子どもは萎縮し、技量の高い子どもだけが評価されているように見えました。プログラ



ムの内容は別として、そこでの大人の関わり方は決してユースワークと相容れるものではないと考えます。では、何が違うのか?

一例として、イギリスにおけるユースワークの価値指針 (Ethical principles) には、次のように規定されています (簡略版を訳しています)。

- (1) 若者を尊敬すべき存在として関わる。個々の若者が価値あるものとして尊重し、否定的な差遣付けをしない。
- (2) 若者の自己決定と自己選択の権利を大事にし、それを伸ばすよう促す。
- (3) 何かに挑戦することを含む、教育的な活動を通じた学びの機会を若者に許容し、若者の福祉と安全を守り伸ばすようにする。
- (4) 若者に対してのみならず、社会全体の公正さの促進のために貢献する。多様性と個々の違いを尊重し、さまざまな判断に対して挑戦することを促す。

どうでしょう、いずれも分かりやすい内容ですし、「当たり前じゃないの?」と見えるかもしれませんが、しかし、実際に若者と関わる場面で、これらのことを意識し、実現するように振る舞うのは簡単ではありません。見てくれ

やんちゃそうな若者が固まっていたら、少し身構えてしまうでしょうし、派手なファッションの女の子がいれば、性格も派手なのではと考えてしまいます。偏差値が高い学校に通っていいれば「頭が良いに違いない」と思うかもしれないし、また逆のことも当然と受け止めてしまうかもしれません。

若者の自己決定を尊重することも、それほどたやすくはありません。若者の成長のためを思えばこそ、大人としての支援者の考えが正しいと思いがちになることはよくあります。先の少年野球の指導者だって、子どもに良かれと思っ

4. ユースワークにとっての核となる考え

どんな活動をユースワークというか? それに対する答えとして、「若者に関わる活動のほとんどはユースワークになりうる」といえるかもしれません。しかしそれは、上記の基本的な価値を共有した活動でなければなりませんから、その点で一定の区切りが付けられます。若者を見かけや属性だ

けで判断してしまったり、大人の側の価値観を押しつけたり、若者の安全な生活に無配慮であったり、社会的排除と戦わない活動、そもそも若者を「若いから」といつて軽んじる活動ならば、それはユースワークとはいえないと言いつつて良いでしょう。とはいえ、上記の価値観は欧米の若者を巡る状況から考えられたものです。その意味で、これから日本の現実に合致したユースワークの価値指針を練り上げていくことが必要なのだと思います。皆さんも共に考え

